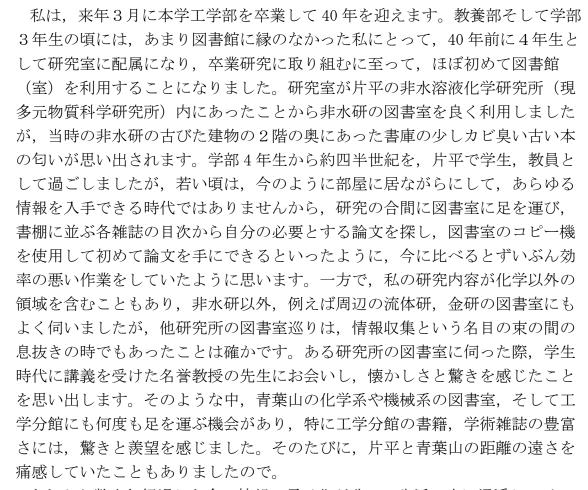




## 図書館との40年を思い返して

工学研究科 化学工学専攻 塚田 隆夫



あれから数十年経過した今、情報の電子化が我々の生活の中に浸透し、インターネットの普及により、世界中のあらゆる情報を瞬時に入手できるようになりました。図書館の利用形態も大きく変わり、本学の検索システム、電子ジャーナル・ブックリスト、データベースリストを眺めると、その利便性は極めて大きく、研究に必要な情報はほぼすべて入手できるような状況にあります。結果として、昔に比べかなり近くなった工学分館にも足を運ぶことはほとんど無くなりました。また、約30年前にアメリカに留学した際、休日を問わず24時間開館している図書館を見て、日本もこのような状況になればと思っていましたが、工学分館の現在のタイムテーブルを見ますと、ほぼ同じ状況になってい













ます。さらに、学習・教育に関る蔵書も増加し、アクティブ・ラーニングのための学習空間を提供する Abelujo も含め、設備・施設も充実化され、学生たちは工学分館を自学自習の場として有効に活用しているように思います。電子ジャーナルの価格の継続的な上昇等、難しい問題もあるかとは思いますが、工学分館、そして本学付属図書館におかれましては、ぜひ現在の環境を継続、さらに発展させ、本学の学習、教育、研究活動に対してより効率的な支援をお願いいたします。一方で、ユーザーである我々は、現在の環境がかなり恵まれた環境であることを自覚して、これを最大限活用し、教育、研究の向上に努める必要があると思います。

周りの若い人たちを見ますと、タブレットを巧みに操り、論文や書籍を読んでいる光景をよく目にしますが、私自身はディスプレイを通して論文等を読むことが未だに苦手であり、電子ジャーナルからダウンロードした論文を印刷して読むことが多く、なかなか現代の情報化社会に馴染めない一人であることを最後に申し添えておきます。







